

俳句をつくらう

①家庭や学校で、また、遊びや通学のとちゅうでふと気づいたこと、季節の変化など自由にメモしてみよう。

※心の動きから俳句は生まれてきます。自分の身のまわりにある風景や、小さなもの一つ一つにも心をとめて、じっくり見てみましょう。きつと、今まで気づかなかったことが見えてくるでしょう。

月 日	こんなこと見つけた	こんなこと思った	季節のことは
/			
/			
/			
/			
/			
/			

月 日							
こんなこと見つけた							
こんなこと思った							
季節のことは							

②メモの中から特に印象に残った事を題材にして短い文章にしてみよう。

※自身自身の気持ちを感じと見つめてみましょう。

「うれしい」、「悲しい」、「楽しい」、「さびしい」などいろいろな気持ちがあると思います。どうして「うれしいのか」、「何が「悲しいのか」を考えてみることによって、今まで知らなかった自分を見つげることができるでしょう。

Blank writing area with vertical dashed lines.

③作文の中から詩を作るのに必要

なことばをぬき出そう。

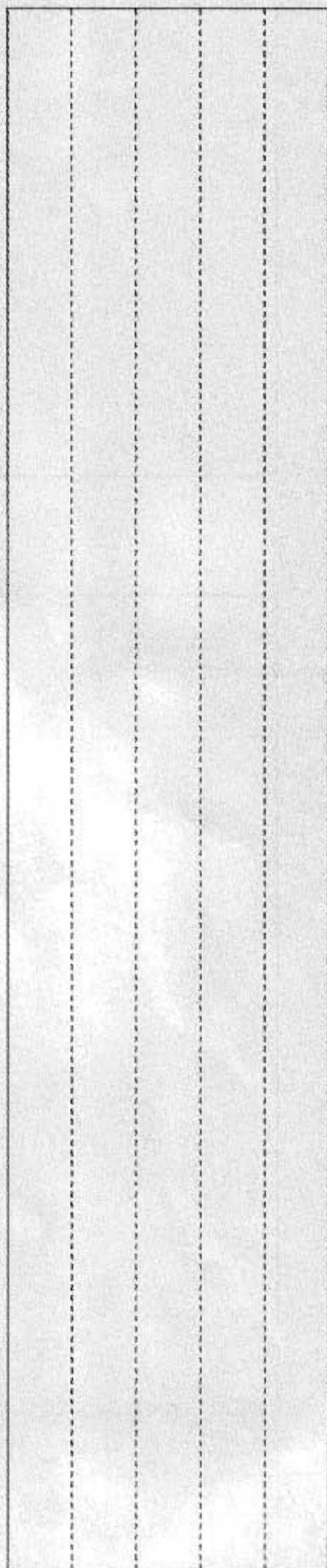
Blank writing area.

④ぬき出したことばやメモの中の季節のことばをつなげて、自分の書き

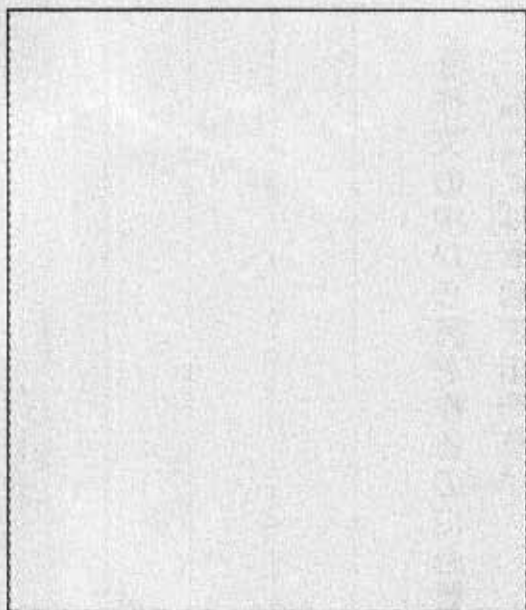
たいことを詩にしてみよう。

Blank writing area.

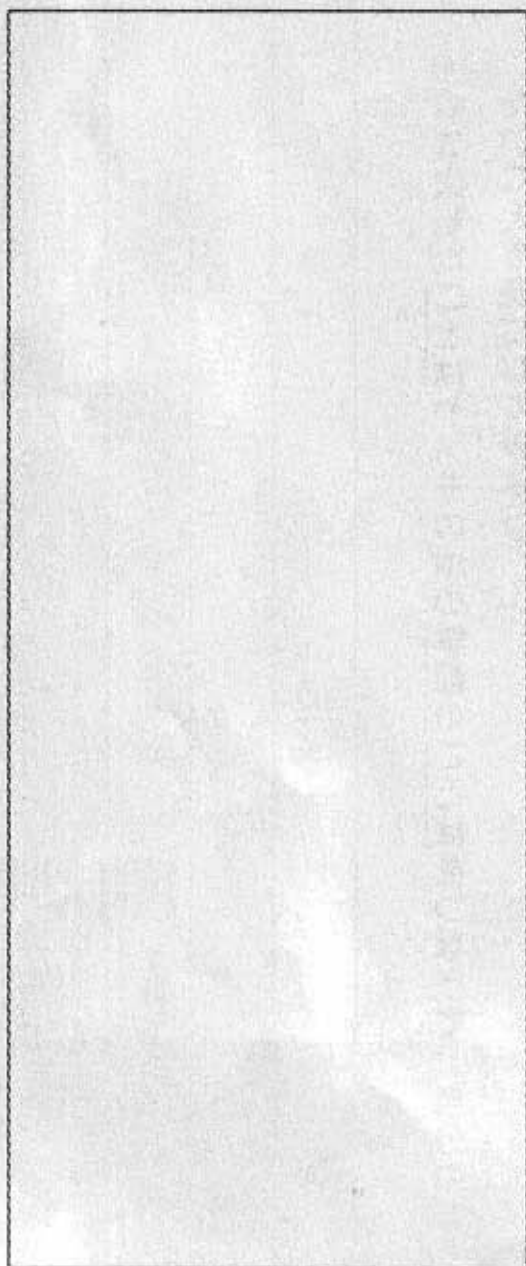
②メモの中から特に印象に残った事を題材にして短い文章にしてみよう。



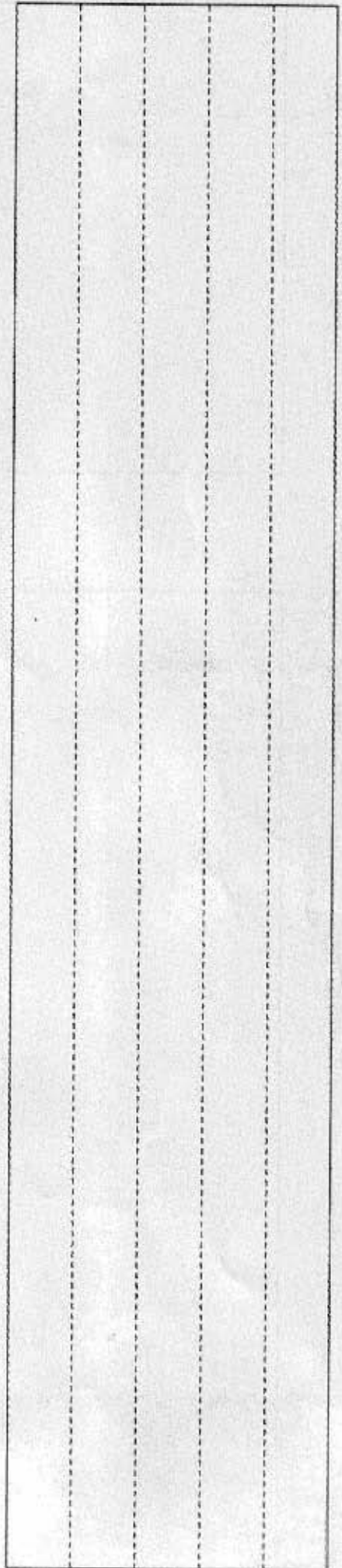
③作文の中から詩を作るのに必要なことばをぬき出そう。



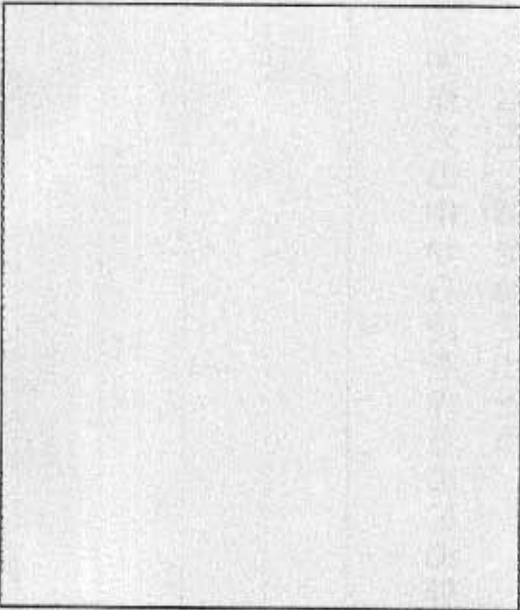
④ぬき出したことばやメモの中の季節のことばをつなげて、自分の書きたいことを詩にしてみよう。



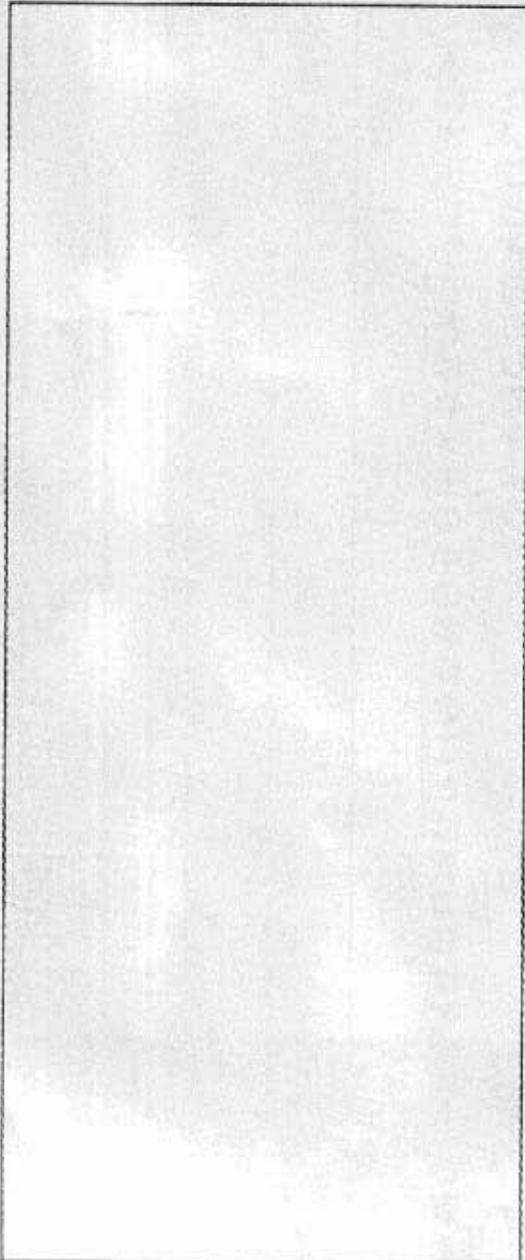
②メモの中から特に印象に残った事を題材にして短い文章にしてみよう。



③作文の中から詩を作るのに必要なことばをぬき出そう。



④ぬき出したことばやメモの中の季節のことばをつなげて、自分の書きたいことを詩にしてみよう。



⑤ 季節のことばを使って五・七・五の俳句にしてみよう。

※自然や身の回りの様子でおどろいたり感動したこと、うれしい・悲しい・楽しい・さびしい・せつない・つらいなどと感じたことを、そのまま五・七・五の言葉にしてみよう。

--	--	--	--

俳句にはどんな「きまり」があるのだろうか

① 五・七・五の十七音にまとめることが、いちおうのきまりになっています。ただし、どうしても十七音よりふえてしまう(字あまり)、十七音に足りなくなってしまう(字たらず)というような場合もよいと考えられています。

② 「季語」という、季節を表す言葉を必ず入れることになっています。

四季の移り変わりがはっきりした日本。そこで生活する人々が、自然に関心を持ち、季節の変化を楽しむ生き方の中から生み出してきたものが俳句なのです。

「季語」には「夕立」や「雪」など気候を表す言葉のほか、「お年玉」、「アイスクリーム」といった生活の中の言葉、また、「桜」や「蝉」などといった植物、動物などたくさんのものがあります。

このような季語を集めたものを「歳時記(さいじき)」といいます。この本にもそのうちの一部がのっています。自分で俳句を作るときに使ってみましょう。

また、ワークブックのメモに書き込んだ季節のことはあつめて、みなさんの学校や学級オリジナルの歳時記を作ってみるのも楽しいですよ。

季節のことはあつめて自分の歳時記を作ってみよう

冬	秋	夏	春	新年
季節のことば				